United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
西宮ユネスコ協会
西宮ユネスコ
2019.3　第150号

発行所：西宮ユネスコ協会（西宮市六湛寺町３－１　西宮市役所東館　人権教育推進課内　TEL 0798(35)3892・FAX 0798(36)1208）
発行人：古　胡　博　巳　　編集人：青　木　弘　子

『きょういくで、あしたへいく』

会　長　**辰馬　章夫**

1989年に始まった世界寺子屋運動は、ことし30周年を迎えます。「きょういくで、あしたへいく」を掲げるこの運動は、これまで世界44カ国と一地域に532の寺子屋を生み出し、130万人の人々に学びの場を届けてきました。それでもまだ世界には７億５千万人の非識字者や、小学校にも通えていない子どもたちが沢山います。この運動の視点は、経済的に豊かなものが、貧しいものを助けるのではなく、同じ目線でともに学び合い、ともに生きるという温かい心をつないで、すべての人が有している「基本的人権」の尊重を旨とする教育支援です。（日ユ協連機関紙「ユネスコ」2019年１月号より）

国連が2015年に採択したＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の基盤となっているのがこの人権尊重です。すべての国連加盟国が2030年までの達成をめざす貧困や教育・環境など17分野にわたる目標を掲げています。

寺子屋運動の道のりは、まだまだ遠く、これからも続いて行きます。私たち西宮ユ協は、ささやかな草の根活動ながら、力になる継続を活発に積み重ねて参りましょう。書きそんじハガキ、未使用切手、たんす遺産、チャリティー行事などで温かいお心を賜ればと願っています。

私たちの日常生活を脅かす「災」が頻発しています。人智の及ばぬ「天災」とともに、「人災」が目につきます。人災は人が惹き起こす災いです。やるべきことをせず、事態を悪化させる、これも不作為の人災です。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」、この言葉は戦争だけでなく人災にも当てはまります。人災は心の栄養不足から生まれます。もはや防災・減災は単に避難訓練などの行事や活動と捉えるのではなく、特に子どもたちの資質、能力、自らを守る力、生きる力を育むための教育と位置付け、ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の理念や学習手法を防災教育に適用することで持続可能な社会の創り手を育成することにつなげるという教育の新しい姿が提示されています。私の母校の甲南小学校の校庭に、「常に備へよ」と刻まれた石碑が児童たちを見守っています。これは昭和13年、阪神間を襲った集中豪雨によって犠牲となった人たちを悼んだ創立者・平生釟三郎先生の言葉で、今も鮮明に私の心に刻みつけられています。この教訓を共有し、五感を磨きたくさんの「笑顔」と「ありがとう」で心の栄養素をたっぷりとって、ユ協活動に励んで参りましょう。　（辰馬本家酒造（株）取締役相談役）

坂田記念セミナー

大阪市立東洋陶磁美術館鑑賞 特別展「高麗青磁 ― ヒスイのきらめき」

大前　繁雄

今回の坂田記念セミナーは、大阪中之島の大阪市立東洋陶磁美術館で開催（H30.9.1 ～同 11.25）された特別展「高麗青磁―ヒスイのきらめき」の鑑賞である。陶器や磁器に特別の趣味や興味を有しているわけでもない私が、案内書到着と同時に参加を申し込んだのは、最近とみに関心を抱くようになっていた韓国の歴史や文化の一次資料ともいうべき、高麗王朝時代のナマの産品をぜひ自分の目で確かめたいと思ったからである。

私事にわたり恐縮であるが、昨年（H29 年）、5 月のゴールデンウィークをはさんで韓国、台湾を相次いで旅をする機会を得た。その時に、かつてほぼ同じ時期に日本の統治下にあった両国が対照的に異なる面があるのを感じたのである。それは両国の歴史、文化の違いである。

よく「親日の台湾」、「反日の韓国」というフレーズが対比して語られるが、私はこれまでその理由の多くを植民地時代の日本の統治方法や統治に当った人材の違いにあると考えてきた。しかしあらためて両国を訪ねて見て分かったのはその歴史、文化的差異の大きさである。漢族や数十の原住民部族に分かれて、長らく国家なしで過ごしてきた台湾の人達にとって、日本は有史以来はじめて正式の「国民」として優れた行政の恩恵を与えてくれた国である。それに対して韓半島の人々は把えようによっては日本より古い時代から色んな国家を形成し、「国民」としての長い歴史経験、そして優れた文化遺産を蓄積してきている。そのような古い歴史・文化を有する国を併合し、統治していくのに大変な困難が伴ったというのが、今日までの韓国の反日につながっているのではないか、というのが私の近年得つつある思いである。そのような思いに駆られて足を運んだのが今回のセミナーであった。

まずおどろかされたのは、高麗青磁に絞った展示スケールの大きさである。この美術館の寄贈元である安宅コレクションはもとより、宮内庁所蔵のものまで含めて内外 250 点以上が次から次へと私たちの目を楽しませてくれる。高麗王朝は今から丁度 1100 年前の 918 年に建国され 500 年近く続くのであるが、その王朝隆盛時代の産出品はもとより、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての再発見後の再現品まで、宝石のように美しい高麗青磁が最新の研究成果を交えて紹介されている。

磁器の用途も祈りの場や儀礼のための用具、喫茶具や飲酒具や化粧道具入れ、はたまた寝具の枕にまで及び、鑑賞しているだけで高麗の王朝文化の中に引き込まれるような感覚に陥ったのは私一人ではないと思う。本当に価値ある学習のひとときであった。

当日 10 月 5 日は、連続する台風の襲来で、あわただしい中であったが、そんな中にもかかわらず、お世話を頂いた増谷庸子さんはじめ役員の皆さん、本当にありがとうございました。

研修見学会

「綿業会館と企業家ミュージアム」見学

2018 年 11 月 24 日(土)参加者 17 名で、綿業会館と大阪企業家ミュージアムの見学会が行われました。

綿業会館は昭和 6 年 12 月、日本綿業倶楽部の建物として竣工し、翌年 1 月 1 日に開館しました。世界各国の来賓や会員の好みに応じて、好きな部屋を選んでもらいたいという主旨のもと、各部屋のスタイルを変えたり、将来の本格的な冷暖房の普及を予想し、ダクトの径を太くして建物に内蔵させ、井戸水による冷風送気を行うなどの工夫も見られます。また各部屋の窓に鋼鉄ワイヤー入り耐火ガラスを使用していたため、戦火を免れました。戦後焼け野原になった大阪の町の中に残された、戦前の日本の近代美術建築の傑作と言われ高く評価されています。戦前、戦後を通して、華やかな歴史の一端を知ることが出来たのは貴重な体験でした。

綿業会館のレストランでの昼食後企業家ミュージアムへ。商業の町大阪の発展に尽力し、町を作り上げていった約 100 名程の方々が紹介されています。

代表的な方の中には、松下幸之助、小林一三、五代友厚、安藤百福、伊藤忠兵衛、江崎利一の方々、大阪だけでなく現代日本の一流企業の発展に、彼等なしでは語れない圧倒されるメンバーです。

3回目のバングラデシュ訪問

溝端　弘雄

教育支援を続けられている“共に生きる”集い代表の松澤先生に同行し、昨年の10月にバングラデシュを１週間訪ねました。2011年３月にはダッカ滞在中に東北大震災が起り、津波や原発事故の恐ろしさを知らされました。２回目はその３年後、今回は７年後になります。“共に生きる”集いの支援が40年近く続く中洲には未だに水道も電気もありませんが、沢山の人々が暮しています。義務教育にも拘らず小学校がない、或いは、遠くて通えない所で11校の小学校（盛時には中学校５校も）に支援が続いています。小学校は５年制で先生が１人の為、５年毎に新入生が誕生しますが、入学できなかった子供達は５年間待機せざるを得ません。当初は子供も大切な働き手だった為、親は通学させなかった事もありましたが、今では殆どの生徒が無事に卒業しています。

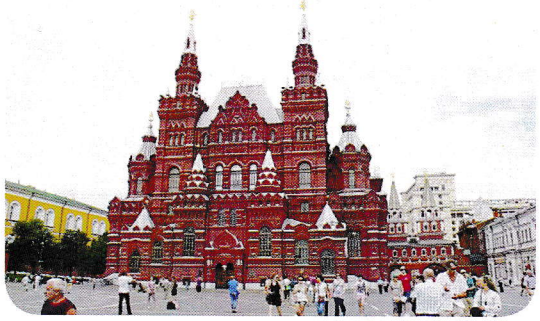
今回訪問時には村人から先生１名の増員を要望されましたが、やっと勉強の大切さが分かってきた証しだと思います。識字率が漸く70％を超えましたが、文字が読めない親には子供達が教えているとも聞きます。大河の広大なデルタ地帯で穫る米は世界４位の生産量、大河で獲れる魚と共に今や飢餓とは無縁の国になりつつあるように感じます。今回の７年目の訪問で生活が徐々に改善されている事を肌で感じました。リキシャの電動化、生徒達の服装、携帯電話の普及、縫製産業の発達等経済成長が続いています。ＪＩＣＡの支援でダッカに高架鉄道の建設が始まり、３年後には開通する予定で、急速に近代化が進んでいます。６～７％の経済成長が続くバングラデシュも豊かな社会に変貌しつつあると感じました。中洲でも太陽光発電と蓄電池のお蔭で携帯電話が普及し、情報化時代の幕開けが始まっています。支援が始まって以来、これまでに3000人近い子供達が巣立っており、いずれは日本との懸け橋になってくれるものと期待しています。そして“共に生きる”集いの支援活動が末永く続く事を願わずにはいられませんでした。

世界遺産シリーズ
「赤の広場とクレムリン」を訪ねて

鶴　美代子

「民間ユネスコ世界大会（於・エカテリンブルグ）とロシアの世界遺産を巡る旅（1999年）」に参加しました。

「クレムリンと赤の広場」はロシアの首都モスクワのど真ん中にあり、クレムリンの城壁と大統領官邸、歴史広場の中央にはレーニンの遺体が安置されたレーニン廟が建っている。



「赤の広場とレーニン廟」（1990年12月登録）

クレムリンはロシア語で『城塞』と言う意味で、1156年ユーリー・ドルゴスキー大公がモスクワ川左岸に木造の砦を築いたのが起源、15世紀末の大火で周辺の木造家屋が全焼しその後にできたもの。15世紀後半にイヴァンⅢ世の治世に、壁と塔を煉瓦造りに変え建設、内部に宮殿や聖堂、鐘楼、武器庫等を持つに至った。

外観は三階建て内部二階建で、内部の家具、装飾品、織物、シャンデリア、磁器や青銅器は特注の逸品で、内装はロココ様式、アンピール様式で伝統と流行折衷。ソビエト時代、ロシア連邦を通して国家的式典に使用された。旧クレムリン大会宮殿はソ連崩壊後名称を国立クレムリン宮殿と改称された。武器庫は戦利品、武具、武器、宝石、ロマノフ家の宝物コレクションが保管され、ツアーリのガレリアや約8,000点の武器や甲冑が集められていた。聖堂の「イコン」は気品と慈愛に溢れ印象的であった。クレムリン尖塔スパスカヤ（救世主）にはウラル山脈から採掘されたルビーで作られた赤い星（クレムリンの赤い星）が輝き威光を放っている。

「赤の広場」はロシア最大の広場でモスクワの政治と商業の中心であり、今も政治の中枢で大統領府が置かれている。「赤の広場」と名付けられたのは17世紀後半になる。「赤」はロシア語で「美しい」と言う意味で本来「美しい広場」と言われていた。この旅で私は19世紀西欧の文明を吸収したロシアの芸術に触れること。本場のバレエを観賞する、世界四大美術館エルミタージュ美術館で貴重な名画を鑑賞することでした。スパシーバ！

事務局だより

☆近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 彦根

2018年度近畿ブロックユネスコ活動研究会は2018年10月27（土）・28日（日）、滋賀県彦根市の彦根ビューホテルで開催されました。基調講演では井伊家第18代当主・井伊直岳氏（彦根ユネスコ協会名誉会長）が「彦根藩の明治維新」、滋賀県立大学教授・中井均氏が「彦根城の魅力―文化財を未来に伝えるために―」をそれぞれ話されました。西宮ユ協から4名が参加しました。

☆第46回チャリティーバザー開催

第46回チャリティーバザーは2018年11月4日（日）、夙川公民館で開催されました。今回は約150名の方が参加されました。収益の一部は日ユ協連の「東日本大震災こども教育支援」に送金しました。

☆新年理事会・懇親会開催

2019年の新年理事会・懇親会は1月26日（土）、ホテルヒューイット甲子園で開催されました。理事会は辰馬会長が議長となり、中間の活動報告、会計報告と2019年度の活動計画案が提出され了承されました。午後からは一般会員の皆さんも交えて懇親パーティーが開かれました。理事・松澤員子先生の乾杯の音頭、会食・楽しい語らいと共に、昨年秋に松澤先生と共にバングラデシュを訪問した溝端弘雄常任理事による報告会、そしてビンゴゲームと和やかな一時を過ごしました。

☆2019年度総会開催

2019年度西宮ユネスコ協会総会は5月25日（土）、西宮市職員会館3F大ホールで開催されます。

総会後にはミニコンサートや会員懇親お茶の会も用意されています。多くの皆さんのご出席をお待ちしています。

協会日誌（2018年10月～2019年3月）

'18.10.5	坂田記念セミナー 「高麗青磁―ヒスイのきらめき」 （大阪市立東洋陶磁美術館）
10.27	近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 彦根 （彦根ビューホテル）
11. 4	第46回ユネスコ・チャリティーバザー （夙川公民館）
11.10	「にしのみや　ふるさとウォーク2018」 （甲陽園西山公園～甲山自然環境センター）
11.16	阪神間ユネスコ協会連絡会② （西宮市男女共同参画センター）
11.24	研修見学会「大阪の歴史資料館を訪ねて」 （綿業会館・大阪企業家ミュージアム）
'19. 1.10	英語教室　第Ⅲ期開講　（プレラ4F）
1.21	文楽鑑賞会　（国立文楽劇場）
1.26	新年理事会・懇親会 （ホテルヒューイット甲子園・愛宕の間）
3. 9	第23回西宮国際交流デー （フレンテ西宮4F・5F）
3.15	阪神間ユネスコ協会連絡会③ （芦屋市民センター）
3.17	国際理解講座 （共催　西宮市国際交流協会・市教委・西宮ユ協） 講演「ハーフを考えよう！」 講師　サンドラ・ヘフェリン氏 （西宮市役所東館8F大ホール）
3.19～24	第34回ユネスコ世界児童画展 （市民ギャラリー）
3.末	会報150号発行

―今後の催しの予定―

'19. 4. 4	英語教室　第Ⅰ期開講
5.25	2019年度通常総会
6.	坂田記念セミナー
7.19	民間ユネスコ運動の日
8.	“みんぱく探検”（市教委・西宮ユ協共催）
9.	英語教室　第Ⅱ期開講
9. 7～8	第75回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京 「世界寺子屋運動30周年記念」
9.20	第40回阪神間ユネスコ協会連絡会合同事業 （尼崎・すこやかプラザ）
9.末	会報151号発行
10. 5～6	近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 大阪
10.	研修見学会
10.	第47回ユネスコチャリティーバザー
11.	国際理解講座
'20. 1.	英語教室　第Ⅲ期開講
1.	新年理事会・懇親会
1.	文楽鑑賞会
2.	第24回西宮国際交流デー
3.	第35回ユネスコ世界児童画展
3.末	会報152号発行